

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成26年7月21日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 地球環境学舎

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 塩野崎 和 美

助 成 の 種 類	平成26年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	島嶼生物学会2014	
発 表 題 目	奄美大島におけるノネコの食性分析	
開 催 場 所	アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市	
渡 航 期 間	平成26年7月6日 ～ 平成26年7月13日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	150,000円
	使用した助成金額	150,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	渡航費: 101,380円
宿泊費: 48,620円		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 渡航より早く助成金を振り込んでいただけましたので大変助かりました。ありがとうございます。 採択枠が多く助成を頂けましたことで無事国際学会に参加することができました。 ただ開催地が観光地ということもあり、物価が想像以上に高く困りました。開催地の物価なども助成金額に想定していただけると大変助かります。ご検討よろしく願います。 今回はありがとうございました。	

成 果 の 概 要

京都大学大学院 地球環境学舎 塩野崎 和美

この度は公益財団法人京都大学教育研究振興財団による「平成 26 年度若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成」による助成金を頂き、第 1 回開催の「島嶼生物学会 (Island Biology) 2014」に参加させていただきましたのでご報告いたします。

学会概要

学会名：島嶼生物学会 (Island Biology) 2014

開催場所：アメリカ合衆国 ハワイ州 ホノルル市

開催期間：2016 年 7 月 7 日～11 日

この学会は世界中の島嶼を調査地とする様々な方面の生物学者や研究者が集まり、研究の成果や今後の島嶼における温暖化や生物多様性といった問題解決に向けて意見交換をする場として新しく設立されました。島嶼は隔離された環境にあり長年にわたって独特な進化を遂げた様々な種が生息する場として大変貴重な生態系を有することは広く知られていますが、孤立した環境で進化したことから外部からの影響を受けやすく、特に人間の移動とともに持ち込まれた外来種が島嶼在来種に様々な被害をもたらし、在来種の多くが絶滅や絶滅危惧の脅威にさらされています。近年島嶼における外来種問題をテーマとした研究や調査が進み、問題解決に向けての様々な活動や管理も実践され成功例も数多く報告されているため、本学会では外来種研究の結果だけでなく、管理等の実践的な方法や問題点などについての様々な発表を聴くことができました。私は奄美大島において外来捕食者として問題となっているノネコの在来生物に対する脅威を研究していますが、国内においてノネコを主に研究している研究者はほとんどいないため、本学会において海外のノネコ研究者に会い様々な情報を得ることや、研究や管理に関してアドバイスを受けることは大きな目標の一つでした。

口頭発表では何人もの研究者から島嶼の在来種（特に哺乳類、鳥類、両爬虫類）の生存が外来捕食者による捕食によって脅威にさらされている現状やそれに対する対応策やその効果についての報告がありました。数ある外来捕食者の中でも特にノネコについての発表が多く聞かれ、在来種保全のためのノネコ対策の必要性やその方法と効果についても報告があり大変参考になりました。ノネコの捕食によって在来生物が絶滅の危機にあることは以前より調査によって明らかになっているので、本学会では特に対策による成功例や今後の課題について様々な発表が聞けたことは、研究も対策も遅れている日本で今後どのような調査や対策方法が有効なのかを知る上でとても重要な情報であったと思います。島嶼におけるノネコの駆除による在来種保全の方法は比較的小さな島においては主流の方法であり、成功例も数多いものの、居住者も多く面積も大きな奄美大島のような島では簡単に駆除することは不可能であるため、保護区の設定と保護区内の駆除と行った方法が現実的であること。また駆除や管理の必要性を住民に十分に説得する必要がノネコ対策にとって最も重要であることが強く唱えられていました。奄美大島においては未だ保護区もなく、行政も対策に非積極的で危機感が大変低いいため、今回得た

報告を参考資料として奄美大島の在来種保全のためのノネコ対策に向けてさら強く提言する必要性を感じました。

また私自身のポスター発表では他のネコ研究者（主に学生）と研究内容や手法について色々と意見交換をすることができ、新たな研究手法についても情報を得ることができました。更に既に著名なネコ研究者の方々とも話をすることができ、今後のノネコ研究や管理について様々なアドバイスや情報を頂くことができ大変有意義な時間を過ごすことができました。ノネコ研究に関するレビューにおいては以前から日本における研究が少ないことが指摘されていたため、今回の発表で日本における研究結果を直接伝えることができ、日本の島嶼におけるノネコの問題を報告できたことは成果だと思っております。

今回初めての国際学会に参加し、国内の学会では出会うことのできない同分野を専門とする研究者の方々と意見や情報交換をすることができ、また様々な刺激やアドバイスを得ることができたことは学会参加の大きな成果でした。この経験を元に更に研究に励み、奄美大島におけるノネコ対策の実践と成功にまで結びつけたいと強く思っております。この度は助成金の交付ありがとうございました。